

小中学校教員のメンタルヘルスに影響を与える因子の検討と未測定因子に関する感度分析

日本において教員の精神疾患による病気休養は増加傾向にあり、メンタルヘルスの改善は重要な課題である。教員のストレス因子は複数報告されているが、なかでも時間外労働(長時間労働)はストレスと強い関連を持つことが示されている。部活動や事務作業、保護者対応などの周辺業務の削減による労働時間の短縮が必要とされているが、業務種別のストレスとの関連が不明なため、削減すべき業務の選択にとって障害となっている。

本研究では、岐阜県の公立小中学校教員を対象として、職業性ストレス簡易調査票を用いて取得されたの心理的ストレス反応をアウトカムとし、時間外労働の業務種別の労働時間との関連について検討する。また、教員個人の能力やモチベーション、健康状態などの未測定交絡が存在するため、E-valueを用いた未測定交絡の定量的感度分析を行う。

本抄読会では、まずデータの取得方法や対象者の属性などの概要を説明する。次に各変数の欠測や分布などのデータの詳細に触れ、最後に解析に用いる予定の変数や統計手法など、解析の方針について説明する。

参考文献

- 1 文部科学省 令和元年度公立学校教職員の人事行政状況調査結果(概要)
https://www.mext.go.jp/content/20201222-mxt_syoto01-000011607_00-2.pdf (参照 2021-09-30)
- 2 国立教育政策研究所 学校組織全体の総合力を高める教職員配置とマネジメントに関する調査研究報告書
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h28a/kyosyoku-1-8_a.pdf (参照 2021-09-30)
- 3 Bannai A, Ukawa S, Tamakoshi A. (2015) Long working hours and psychological distress among school teachers in Japan. *Journal of Occupational Health*. 57(1), 20-7.
- 4 VanderWeele TJ, Ding P. (2017) Sensitivity analysis in observational research: Introducing the E-value. *Ann Intern Med*. 167(4) 268-274.